

# ミレニアル世代以降のキャリアブレイクとしての「学び」の選択とプロセス

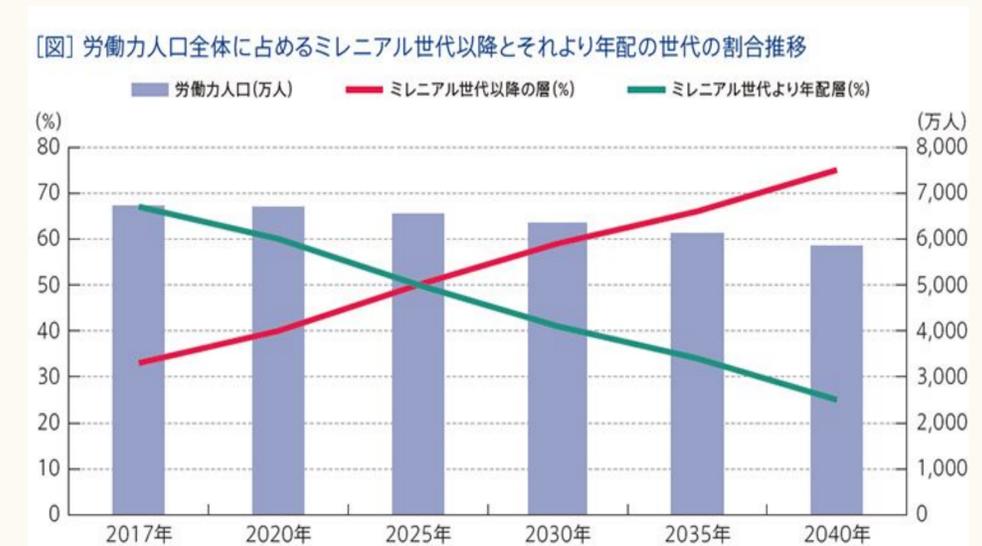
- 「シフト型×内省型」の学びに着目をして -

慶應義塾大学 修士1年 遠又 香(玉村研究室所属)

## 01.社会的背景

**長期期間会社から離れて、自分の在り方を作ることに興味があるミレニアル世代。一方で、日本の場合、働き方も学び方も旧世代のままになっていることが、学ぶことを疎外している。**

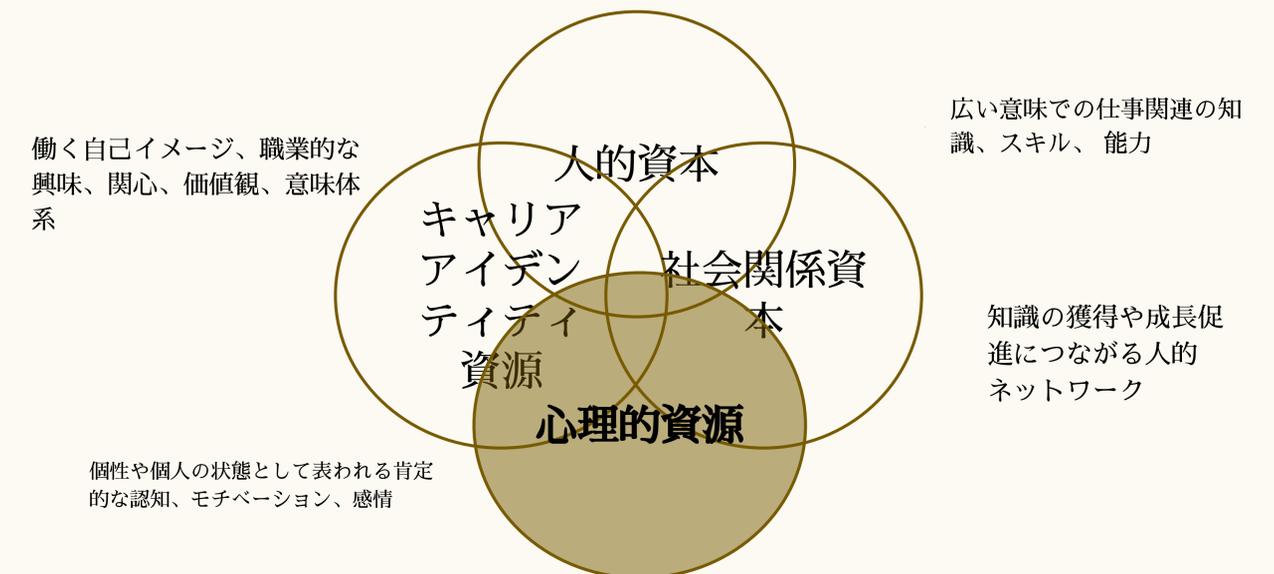
- 2025年にはミレニアル世代が労働者の半分以上に。長寿化が進む中、若い世代は、前の世代よりも長期間/複数の場所で働くことを想定しているため、様々な形で頻繁に仕事のペースを緩めたり、自分の在り方を学びながら作り続けることに注目している。
- 一方、終身雇用の仕組みが根強い日本では、働き方も、学び方も、旧世代のままとなっている。一つの会社で一生勤め上げるという従来型の考え方が主流な上の世代からの影響も多く受けるミレニアル世代は、他者の目を気にすることで、学ぶことに興味関心はありながらも、キャリアを一時中断してまで、学ぶことに積極的になる人は極一部なのが現状である。



## 02.学術的背景

**不確実性なキャリアの中でも生きていくためのキャリア・アダプタビリティという心理資源は注目されているが、具体的にどのような経験・学びが、心理資源を豊かにするのか研究はされていない。**

- キャリアの不確実性が増す中、個人が自己を環境に適応させ、自ら納得できるキャリアを構成するために必要とされるキャリア・アダプタビリティ (Salvickas,1997) という心理資源に注目が集まっている。
- キャリア・アダプタビリティの指標は欧米では開発され、定量的な研究は進んでいるが、キャリア・アダプタビリティを豊かにするために必要な経験、学びの具体的なプロセスはまだ明らかになっていない。さらに日本の場合は、キャリア・アダプタビリティの指標自体もまだ定まっておらず、学びの仕組み化には程遠い。



### 03.研究の目的・位置付け

### ミレニアル世代のキャリアブレイクとしての「学び」の可能性を検討すること

- 時代の間にいるミレニアル世代がどうすれば、キャリアブレイクという自律的な生き方を選択できるのか。その動機とプロセスを明らかにした上で、学びの仕組みを探索的に実証する。
- 学びの仕組みの中でも、キャリアを一時ブレイクして選択するシフト型で、かつ、その中でも、心理的資源を高めることにつながりそうな、内省・探索型のモデルを検証していくこととする。
- 先行事例として、成人教育の最先端であるデンマークのフォルケホイスコーレをモデルとする。

シフト型

大学院・大学	オルタナティブスクール (シュレー大学)	
ワーキングホリデー	民衆大学(フォルケホイスコーレ)	
ビジネススクール	シューマツハカレッジ	旅
デザインスクール		
知識・スキル型	キャリア開発系の研修 (journey to the source)	内省・探索型
社会人大学院	教養的な学び場(自由大学、シブヤ大学など)	
		パラレル型

### 04.研究対象

今回は、北海道・東川町でフォルケホイスコーレをモデルとした大人の学び舎を運営しているSchool for Life Compathを対象として、アクションリサーチを実施していく。

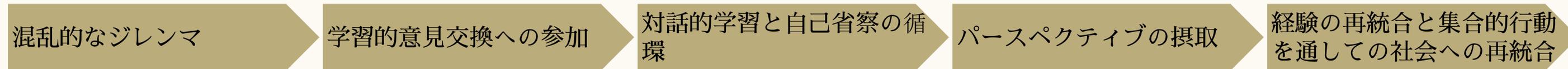
- 北海道・東川町は人口8000人の町。人口の半数を移住者が占め、人の流動性が他の地域に比べて高い。
- 町のコンセプトとしては、"適疎"を掲げ、ほど良い余白の中で、人と人がお互いに誇りを持ちながら生きていくことを推奨
- 個人事業主で働く人も多く、自分のあり方を探究し、作っていく場所としては最適
- School for Life Compathは2020年4月に立ち上がった法人で、デンマークのフォルケホイスコーレをモデルとしつつ、東川町の地域資源を生かした形の学び舎作りを模索中。

## 05.リサーチデザイン

### ▼リサーチクエスチョン

**RQ1.** キャリアブレイクをしたミレニアル世代は、なぜ「シフト×内省・探索型」の学びを選択をし、その後どのような変化が生まれたのか？

【仮説】 個人の意識変容のプロセスとしては、「シフト×非目的型」の学びは自己省察的学習に位置付けられるため、J.メジローの意味パースペクティブの学習プロセスで説明できるのではないか？



**RQ2.** 日本において、ミレニアル世代向けに「シフト×内省・探索型」の仕組みを作る時、どのような要素がキーとなるのか？

【仮説】 デンマークのフォルケホイスコーレで大切にされている10の要素の中でも特に、「スクール・フィロソフィー」・「ストーリーテリング」・「共同生活」・「評価をしないこと」が重要になるのではないか。さらに、日本とデンマークは社会システムの構造が大きく異なるため、心理的資源以外に、キャリア・アイデンティティ資源を豊かにするために地域の中で働く、活動するなど、の要素が必要となるのではないか。

### インプット

- 参加する上でのサポート
- 心理的・経済的サポート
- 4つのプログラム設計
- ストーリー・テリングの授業
  - 地域の生活文化に根ざした授業
  - 探究型の授業
  - 共同生活

### 直接アウトカム



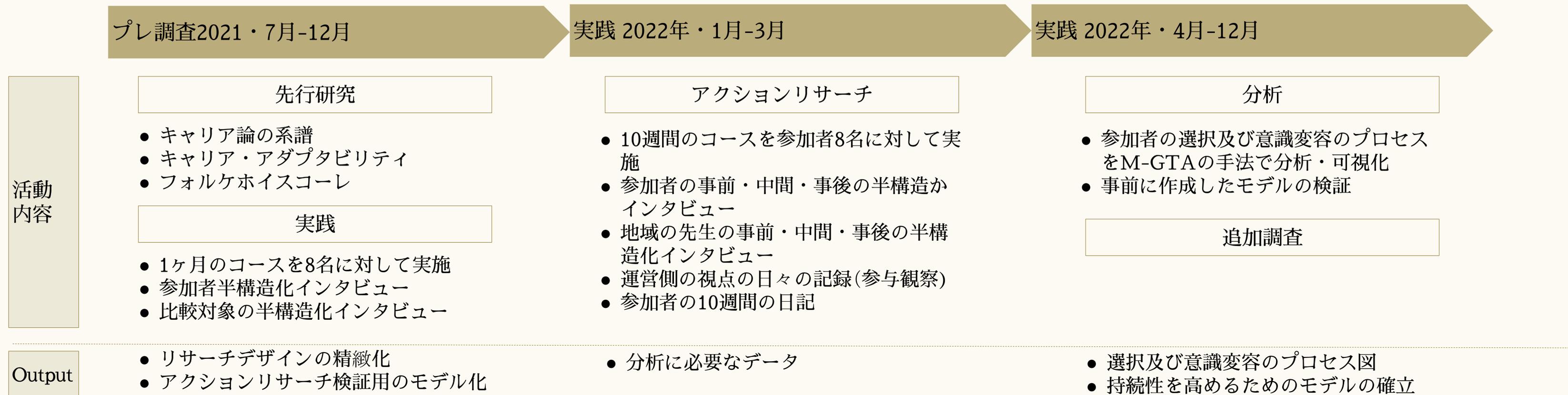
### 中間アウトカム

### 最終アウトカム

様々な環境の変化に対応しながらも、自らのあり方をつくり続け、自ら所属するコミュニティに対して主体的に関わっている状態

スクール・フィロソフィー  
の共有

## 06.研究計画



## 07.研究の意義

- 学術的) 具体的にどのような経験・学びが、心理資源を豊かにするのかを定性的にプロセスとして明らかにすること
- 社会的) ミレニアル世代以降がキャリアを築いていく上で必要な新しい形の学びの仕組みのモデルができること。それをベースに政府や自治体に対しての提言につなげる